平成２８年度

社会福祉法人虹の会　事業報告書

社会福祉法人虹の会

わになろう（居宅介護等事業、地域活動支援センター事業等）

ひまわり生活の家（共同生活援助事業）

計画相談支援センター虹（相談支援事業）

高島市障がい者相談支援センターコンパス（相談支援事業他）

ハーモニー（生活介護事業）

アイリス（就労継続支援Ｂ型事業）

大地（就労継続支援Ｂ型事業、生活介護事業）

ドリーム・あんです（就労移行支援事業、就労継続支援Ｂ型事業）

ドリーム・だんだん（生活介護事業）

マーブル
（就労継続支援B型事業、生活困窮者等就労準備支援事業）

※　平成28年度社会福祉法人虹の会事業報告については、事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人虹の会

総括	今年度も虹の会の基本理念「共に生きる」・6つの基本方針を軸として、障がい福祉に携わる法人としての自覚と誇りと責任をもって法人運営を実践した。 今年度は統括施設長を廃止、管理職理事を3名任命する形で社会福祉法人制度改革を見据えた法人組織のガバナンス強化の一歩とした。また、月に2回開催した運営委員会と月1回の定例および臨時で開催した管理職会が有機的な連携ができ、法人及び事業所をより利用者・地域ニーズに応えて発展させるべく、法人内外の課題に対して管理職を中心に理事長および役員とも協議を重ね多面的な視点で法人運営を推進した。 社会福祉法人制度改革への対応においては、法人運営の根幹となる定款の全部変更を行い、新たに4名の評議員選任・解任委員の選任および8名の評議員の選任を実施、経営組織の新しい体制の基盤作りに着手した。また、財務規律の強化に対しては顧問税理士と適正な予算作成、余裕財産等について協議を重ね、社会福祉充実残額についての知見を深め、財務内容の健全化に努めた。 新たな事業としては平成27年度より検討を重ねていたリネン事業を12月にマーブルとして開所、１０名の利用者を迎え入れ「働きがいと高工賃」の両立を目指しスタートを切った。また、生活困窮者を対象とした就労準備支援事業や傍楽体験の事業を開始、障がいのあるなしに関係なく生きづらさ・働きづらさを抱えた方へのアプローチを実施した。これらの新たな取組は、虹の会が理念の基に「誰もが自分らしく活動・働いて暮らすことのできる地域の創造」に寄与するものであり、地域における公益的な取組を考える土台として次年度につながるものとなった。 ＜委員会等の取り組み＞ ＊職員採用委員会 ・就職情報サイト(マイナビ)やハロワーク等を活用して新卒獲得に向けて活動を実施、2名の新規採用に至った。しかし、昨年に引き続き男性職員の獲得が課題である。 ・内定者に対してフォローアップ研修、アルバイトの受け入れを行った。 ・非正規職員の正規職員への登用を実施した。 ＊人権推進委員会 ・事業所毎に人権スローガンを掲げて人権啓発に取り組んだ。 ・全体研修として情報漏えいと人権について理解を深 める研修を実施した。 ・高島市等が主催する人権研修へ積極的に参加した。 ＊研修委員会 ・年間研修計画に基づき全体研修や事業所別研修等を内外で実施、参加した。 ・新規採用者向けに管理職が講師として集中研修を実施したほか、職員到達目標チェック(年度当初３ヶ月)、リーダー職を中心としたＯＪＴを実践した。 ・主任会ではスーパービジョン研修（５回連続講座　講師：福井県立大学　吉弘淳一氏）に取り組み、組織の中で、職員を育成しながら専門家としての熟成を図るため、必要な指導・調整・教育・評価の技術を体系的に学んだ。 ＊虐待防止委員会 ・虐待防止における組織的な取り組みを強化するため、障がい者虐待防止実施要項・虐待発生時対応マニュアルの作成、身体拘束の取り扱いについて確認した。 ・虐待防 止チェック・セルフチェック・ストレスチェックを行い、事業所単位で検証し、日々の業務へ反映させた。 ・アンガー（怒り）コントロールについて理解を深める職員全体研修を実施した。 ＊リスクマネジメント委員会 ・法人・当委員会でリスクマネジメントの考え方を共有し、危機管理体制を検討できる人材育成をした。

	・「より質の高いサービス」を職員一人ひとりの資質や責任の問題としてとらえるだけでなく、組織全体で創り上げるための取り組みとして、管理職にインシデントシート導入に向けてのマニュアルを説明。各事業所で普及してもらい次年度より導入する準備に取り組んだ。 ＊ＩＴ担当者会議 ・セキュリティーの専門家と顧問契約を締結、ネットワークのウイルスソフトによる包括的なパソコン管理などセキュリティ強化に取り組んだ。 ・ホームページをリニューアルし事業所活動などの情報公開や公益性・透明性をアピールする場として再構築した。 ＊虹の会創立２０周年準備委員会 ・昨年度まとめた基本構想に従い、①記念式典、②記念祝賀会、③記念誌の3グループに分かれ、全体会議で確認後、管理職会、運営委員会に諮りつつ、準備を進めた。 ＊将来構想検討委員会 ・社会福祉法人制度改革への対応を優先すべく、先ずは組織運営体制の構築を図った。 ・数年先を見据えた事業所の在り方と職員育成の必要性を検討した。 ＊高齢者プロジェクト委員会 ・24時間の見守りがあり、バリアフリー化されたホームの建設に向けて取り組んできたが、国庫補助金と見積額の差が大きすぎたため補助金申請を見送る事となる。 ・次年度、事業計画に挙げ、図面費用等を予算化し、取り組みを継続する。 ＊法人内機能分化検討委員会 ・法人内の事業所や事業内容も多種多様になり重なっているものもある。将来構想を見据えた上で設備の共有化･人材の共有化を検討する必要がでてきた。「食」「リサイクル」「農業」「アート」「地域交流」「就労移行」をテーマに「人」「もの」「お金」を活用した運営はできないかを6回の会議で検討した。 ・食の一本化に対応すべくプロジェクト委員会を立ち上げ、利用者はもとより職員にとっても「やりがい」のある仕事として、また地域から必要とされる事業としての在り方を検討した結果、coccoを出口としたブランド戦略も視野にいれ次年度より食の一本化をスタートする。 ＊ぎょうれつ本舗検討委員会 ・法人の取り組みとして、目的を明確にする必要があることを確認した。 ・公益的な事業を円滑に運営していくためには、法人としての位置づけ・職員体制等の方向性を示していただくよう運営委員会へ提言した。
重点項目の振り返り	１．利用者への質の高いサービスの提供 ・利用者ニーズに沿ったサービス・活動を提供するため、機能分化検討委員会を立ち上げ、各事業所の作業内容の見直し、今後の方向性などについて協議した。 ・個別支援計画に基づき利用者の特性を把握した支援の提供に努めた。 ・リスクマネジメント委員会が中心となりインシデントの取り組みを開始、利用者の安心・安全を第一に事故等の未然防止に努めた。 ・第三者委員による事業所訪問および総会を実施、利用者の声を聴いていただくと同時に事業所の抱える課題等に対し適切な助言をいただいた。 ・家族会協議会と管理職理事との懇談会を年数回実施、家族会が感じている課題や情報等を共有し、法人の方向性や取り組み内容などを伝える機会となった。 ２．経営基盤の安定および経営組織の強化 ・理事長および理事を中心とした運営委員会において法人課題の共有、対応策等の検討・協議・決定を行った。

・理事による事業所訪問を月１回程度実施、事業所の現状や抱えている課題等を直接経営層が把握、法人事務局および管理職と共有した。
・顧問税理士の助言のもと安定的な経営を見据えた予算・補正予算編成を行った。
・「消費税予算の仕組みについて」の研修を管理職向けに実施した。
・モバイル、電力、賠償保険等を見直し、支出を管理した。

３．人事・労務システムの充実
・新規採用の充実を図るためマニュアル作成および採用パンフレットを作成した。
・人事評価制度として職務等級基準書および評価シートを活用した取り組みを開始、職員一人ひとりが自己目標を設定し自己研鑽に努めた。
・人事評価制度の課題について職員から聞き取る機会を持ち、重点課題達成評価については、より職員がわかりやすく意欲を持って取り組むことのできる形に変更した。
・今年度は３日間連続の公休取得制度を導入し、職員の健康増進とリフレッシュに取り組んだ。
・昇格試験の在り方を見直し、人事評価制度を活用した仕組みに切り替えた。
・ノー残業デーを継続、メリハリのある仕事を心がけ、心身の健康を図った。

４．地域の福祉の拠点としての役割とその使命
・障がいのある方を支えるため、相談支援機関を中心に必要な関係機関と有機的な連携を図り、複層的な支援体制を構築した。
・制度改革で責務化された「地域における公益的な取組」に対応するため、管理職会を中心に現在 行っている地域への取り組みについて検証を行った。
・高島市福祉施設協議会が立ち上げた地域貢献検討委員会に置いて地域ニーズを把握、虹の会としてできることを確認した。
・基幹相談支援センターとして、自立支援協議会の運営をはじめ、障がいのある方への総合相談支援体制整備の充実、障がい理解の普及・啓発、権利擁護・虐待防止への取組みなどと共に、制度の枠を超えた関係者との連携強化を推進した。
・ぎょうれつ本舗事業における県内外からの視察を積極的に受け入れた。また、事業の検証を行い課題を整理し今後の事業展開を検討した。
・市内で開催されているイベントへの参加等を通して、地域住民と積極的に交流を深めた。
・滋賀の縁創造実践センターの生きづらさを抱える人の「働きたい」を応援！傍楽（はたらく）体験事業の取り組みにおいて、アイリスリネン工場で基本毎月１回（土）２名～４名の方達を受け入れ た。

５．虹の会創立２０周年記念事業
・11月13日（日）午前中、ハーモニーホールで記念式典、午後は今津サンブリッジホテルで利用者中心の祝賀会を実施。記念誌は2月に完成し、配布を行った。

法人合同行事

・入所式	平成２８年４月１３日(水)	会場：ハーモニー、入所者：１７名
・スポーツ交流会	平成２８年６月５日(日)	会場：新旭体育館
・新旭ふくしまつり	平成２８年９月２５日(日)	会場：ハーモニー 、やすらぎ荘
・成人式	平成２９年１月７日（土）	会場：ハーモニー、新成人：８名

平成28年度 行事等実施報告書（案）

項目/月	行事	理事会・評議員会・他	運営員会・管理職会	主任会・リーダー会	その他
		6①人事給与等委員会		7①リーダー会	11①リスクマネジメント委員会
4	13入所式	16①理事会・①評議員会	11①運営委員会		12①研修委員会
		16②人事給与等委員会	21②運営委員会	18①主任会	21②リスクマネジメント委員会
		21③人事給与等委員会	26①管理職会	25②リーダー会	
5		17②理事会	13③運営委員会	9②主任会	
		21③理事会・②評議員会	24②管理職会	9③リーダー会	
		24④人事給与等委員会			
		27⑤人事給与等委員会		23④リーダー会	25①虐待防止委員会
6			2③管理職会		9①ぎょうれつ本舗検討委員会
	5スポーツ交流会		3④運営委員会	13⑤リーダー会	12①法人内機能分化検討委員会
			15⑤運営委員会	15③主任会	17②ぎょうれつ本舗検討委員会
			21⑥運営委員会		22②法人内機能分化検討委員会
			28④管理職会	27⑥リーダー会	30①新卒採用担当者会議
7		27①理事懇談会	5⑦運営委員会		6③リスクマネジメント委員会
			19⑧運営委員会	11⑦リーダー会	20②虐待防止委員会
			26⑤管理職会	20④主任会	29③法人内機能分化検討委員会
8			3⑨運営委員会		9②新卒採用担当者会議
			9⑩運営委員会	8⑧リーダー会	10④リスクマネジメント委員会
			23⑥管理職会	17⑤主任会	
			31⑦管理職会		30④法人内機能分化検討委員会
9	25ふくしまつり		6⑪運営委員会		2③虐待防止委員会
			8⑧管理職会	12⑨リーダー会	7⑤リスクマネジメント委員会
		23⑥人事給与等委員会	20⑫運営委員会		
			27⑨管理職会		26①SV研修（主任）
10	1内定式		4⑬運営委員会		4⑤法人内機能分化検討委員会
			7⑩管理職会		7①高齢者プロジェクト委員会
			11⑪管理職会		18②研修委員会
		22④理事会・③評議員会	18⑭運営委員会		
			25⑫管理職会		24②SV研修（主任）
11		3⑦人事給与等委員会	1⑮運営委員会		8④虐待防止委員会
			10⑬管理職会		9⑥法人内機能分化検討委員会
		14②理事懇談会	15⑯運営委員会	11⑩リーダー会	16⑥リスクマネジメント委員会
			22⑭管理職会		21②高齢者プロジェクト委員会
	27法人全体研修				28③SV研修（主任）
12		1⑧人事給与等委員会	8⑰運営委員会		7③新卒採用担当者会議
			12⑮管理職会	12⑪リーダー会	
		27④評議員会	20⑱運営委員会		26①管理職研修
		28⑤理事会	27⑯管理職会		26④SV研修（主任）
	7成人式		10⑲運営委員会		

1			12⑰管理職会	17⑫リーダー会	18⑦リスクマネジメント委員会
			24⑳運営委員会		30③高齢者プロジェクト委員会
2		1⑨人事給与等委員会	3⑱管理職会		
		5⑥理事会	7㉑運営委員会		
		14⑩人事給与等委員会	21㉒運営委員会		20⑤SV研修（主任）
			28⑲管理職会		28②管理職研修
3		6⑦理事会	7㉓運営委員会		9⑤虐待防止委員会
			8⑳管理職会	7⑬リーダー会	
			15㉑管理職会		
		18⑧理事会・⑤評議員会	21㉔運営委員会	16⑥主任会	
			22㉒管理職会		
		31⑪人事給与等委員会	28㉓管理職会		

事業所名：アイリス

総括	4月には養護学校卒業生2名が入所、12月マーブル開所に伴い7名の退所、29年度からあんですの従たる事業所「MIZU cafe cocco」へと変更になることを受け3月末3名が退所された。この10名は、しっかり働いて高い工賃を得ることを目標に通所していたため、法人の新たな事業展開に合わせ前向きに進まれた。一方で、年度途中の利用者減が事業にも影響し、生産活動収益減の一因にもなった。また、次年度よりアイリスの事業内容が変わることや利用者ニーズにも変化が見られることで、B型事業所としてどのような特徴を出していくのかを検討していく必要がでてきた。 下半期の重点課題として取り上げていたカフェは「食の一本化」に向け、店舗販売拠点としての役割、ドリーム厨房のセントラルキッチン機能の強化等、あんです職員と共に具体的な検討を進め29年度につないだ。12月以降のリネンについては、従事する利用者が減り生産量がダウンする状況の中ではあったが、アイリス作業室でもリネン作業を始め、新たな利用者の育成に努めた。作業がわかりやすく関われる利用者も増え、自信をもって作業に向かう姿が伺えた。ピンチをチャンスに変える支援ができたことは職員の自信にもつながった。
重点項目の振り返り	**（１）MIZU cafe cocco・ぎょうれつ本舗・リネン事業を活用して虹の会の他事業所との連携を強化します。** カフェでの実習受け入れやぎょうれつ本舗（あんです）、土曜リネン（あんです・大地）、浜園地やリサイクル作業（大地）等を通して、情報共有・協力体制を強化し取り組んだ。 **（２）一般就労に必要な知識能力が高まった利用者には、一般就労に向けた支援を行います。** 上半期に一般就労1名・企業実習1名を支援した。 **（３）独居や高齢等必要な利用者には医療機関との連携を強化した支援を行います。** 入院をきっかけに退院後の独居生活の見直しが必要なケースが数件あり、関係機関との連携を強化し支援を行った。最高齢で一人暮らしの利用者には本人の気持ちを大切に丁寧に準備を進めた結果、退所・通所介護（介護保険）へ移行された。 **（４）家族会や仲間同士のつながりを意識した活動を行います。** 虹の会20周年と同時にアイリス20周年を迎えたお祝いの会を開催した。歴代施設長を招き利用者・家族会・職員が集い、家族会から記念のポロシャツをいただき、カフェのお祝い弁当を囲み、20年の振り返りとこれからの夢を語り合った。 **（５）施設のリスクを洗い出し、リスクマネジメントの取り組みを強化します。** 起きた事象に対してのインシデントメモは出せるようになってきた。予測される危険に対する意識を高めていくことが今後の課題。 **（６）屋根瓦吹き替え工事を行います。** 2月に平成28年度施設整備事業（国庫補助）の補助金交付内示を受け、入札・工事着工に向け準備を進めたが、年度内に実施することができなかった。施工業者が決まり、29年5月以降に契約・着工となり、念願の改修工事が実現する。
事業内容	【生産活動】 リネン、リサイクル、メンテナンス、手織り、ぎょうれつ本舗、MIZU cafe cocco その他（給食配膳、食洗、封入作業、野菜作り） 【研修・その他】 ・利用者研修 ①7/11（株）後藤義次商店見学（京都）　②11/2キリンビバレッジ滋賀工場見学 ③1/30（株）サニーリーフ 彦根農場見学　④3/7森のキッチン見学（大阪） ・自治会活動（日帰り旅行のゲーム、クリスマス会の出し物、コーヒー当番等） ・余暇活動（お花見、おこしやすドリーム、カレー作り、ボーリング）

事業名	２８年度：工賃支給総額　平均工賃（月額）	２７年度：平均工賃(月額)
B型	10,945,162円　19,686円	19,499円

利用者数	定員	年度当初利用者数	途中入所者数	途中退所者数	年度末利用者数
	40名	51名	3名	15名	39名

平均年齢	43.3歳	平均区分	2.1	平均　利用率	102.4%　～11月 78.0%　12月 ～	開所日数（月）	23日

平成28年度 行事等実施報告書（案）

アイリス

項目 月	行事	職員研修・職員会議等	防災・安全等訓練	健康・衛生管理	その他
4	9 お花見 13 入所式		自主点検（毎日）		
5		27 自閉症スペクトラム支援の基礎講座			14 家族会総会
6	5 スポーツ交流会 14 日帰り旅行	8 伝達研修①			20～7/8 新旭養護学校前期実習⑸名） 30 福祉体験受け入れ（新旭北小6年）
7	15 おこしやすドリーム	14 伝達研修② 15 安全運転管理者講習 22 高齢者・障がい者虐待防止研修会 22 TEACCHプログラム研修会・実践報告 29 精神科病棟の入院から退院までの支援			11～15 三雲養護学校臨時実習⑴名） 21 家族会作業参観①
8	27 夏祭り・カレー作り	2 サマーホリデー 19 自分を知る＝自己覚知 30 目標工賃達成指導員研修			2～5 福祉体験受け入れ（湖西中2年） 5 熊本学園大学院視察（ぎょうれつ・カフェ） 18 近江八幡市桐畑学区民会議視察（カフェ）
9	25 新旭ふくしまつり			29 歯科検診	1 高島社協来訪者視察（ぎょうれつ・カフェ） 12～10/14 新旭養護学校後期実習⑸名） 15 校外学習受け入れ（安曇川高校1年）
10	15 アイリス20周年お祝い会		19 避難訓練①	13 歯科検診	6～7 福祉体験受け入れ（今津中2年） 20 家族会作業参観② 28 兵庫県知的障碍者施設協会視察（ぎょうれつ・カフェ）
11	13 20周年式典	16 精神保健部会・かけはし 合同施設研修 19 食品表示法研修会 21 近畿社会就労センター総合研究大会 27 法人研修（情報漏洩と人権・アンガーコントロール）			1 老上学区民児協障害福祉部会視察（アイリス・カフェ・ドリーム） 2 ほおづき作業所利用者研修（ぎょうれつ・カフェ）
12	23 クリスマス会	10 障がい者虐待防止法普及啓発事業講演会 14 伝達研修③		6 健康診断	16 守山市玉津学区民会議視察（ぎょうれつ・カフェ） 12～16 新旭養護学校臨時実習⑴名）
1	7 成人式（対象者なし） 新年の行事				20 奈良県心身障害者施設連盟視察（ぎょうれつ・カフェ） 26 家族会作業参観③ 16～20 新旭養護学校臨時実習⑴名） ＊サービス自己評価実施
2	4 ボーリング	6 近畿社会就労センター職員研修会 8 伝達研修④ 23・24 全国社会就労センター長研修会	22 避難訓練②		18 家族会協議会研修会
3		8 伝達研修⑤ 9 精神障害者の地域生活を支えるための 医療・保健・福祉の連携 11 依存させないための研修	8 AED研修 安全運転研修 22 避難訓練③		13 第三者委員訪問 17 三重県津農林水産事務所視察（ぎょうれつ・カフェ）

※誕生会（毎月）
※職員会議（第2水曜17:00～）
※A会議（第4木曜16:30～）
※手話教室／だんだんと合同開催（第1・第3木曜17:30
※法人内会議（運営委員会、管理職会、主任会、リーダー会、各種委員会等）
※その他会議（自立支援協議会全体会・定例会・部会、サービス担当者会議、個別ケア会議等）

事業所名：ドリーム・あんです（就労継続支援B型事業）

総括	平成28年度は管理職が1人の体制でスタートし、より連携を意識して事業を進めた。 今年度、法人内新規事業所の開所に向け、希望者のニーズに対応すべく体験や実習を行い、開所時にはスムーズに移行することができた。また、平成29年度事業の方向性として、法人機能分化検討委員会で検討されてきた「食の一本化」に向けた検討・確認会議やコアメンバーによるプロジェクトチーム会議を実施。MIZU café coccoを販売拠点、ドリームをセントラルキッチン機能として、商品開発や販売戦略等検討を重ねてきた。さらにはアイリスと連携を密に利用者の体験や実習も行い、様々な視点から次年度を見据えた課題を抽出、解決に向けて取り組んだ。一方で、2月にはノロウイルス感染症が発生し、衛生面の強化、安全性の確保が最優先であることも食を扱う事業者として責任の重さを痛感した年でもあった。発生時の対応や連絡体制等の整備も今後検討していく。 施設整備面ではドリーム開所後13年が経過し、老朽化から機器の故障による買い替えや修繕を実施。また、経費削減や快適な環境となるよう、施設内の照明機器をLED照明に切り替えた。 家族会にもご協力いただいたふくし祭りやおこしやすドリーム以外にも交流会を実施することができ、交流や連携を深めることができた。
重点項目の振り返り	**（１）商品の食品表示（成分表示とエネルギー表示）の改善をします。** 食品を扱う責任のある事業者として、消費者に安心・安全をお届けできるよう職員間で再確認した。また、食品表示法の研修会にも参加し、原材料等詳細明記の記載漏れがないようにも確認した。今後、新たな商品についても継続して実施していく。 **（２）おこしやすドリーム、おこしやすあんカフェ、あん・スウィーツクッキングの実施を通して地域の人を呼び込みます。** 地域の皆様にご利用いただいたあん・スウィーツクッキングでは利用者が提供者となり、年3回実施。石窯で焼いたパンやピザも好評を得ることができ、個人や子供会等で使用したいニーズもあり、次年度に活かしていく。 **（３）地域の事業所等への置き菓子企画の提案をします。** 移動販売の課題を解消するため各企業や関係機関等に置き菓子の提案・実施。継続する中で、委託先および委託内容の見直しを行っていく。 **（４）利用者一人ひとりのニーズに応じた働きたい仕事が実現され、働きがいや働く喜びが実感できる支援を職員チームでします。** 利用者の思いを確認する場として、モニタリング時の面談以外にも話しやすい雰囲気となるよう、職員間で心掛けた。また、言葉で発信が苦手な方の対応として、カードを作成し、意思表示できるよう環境を整えた。さらには分かり易く、働き易い製造ラインを確立するため機器等の配置やポジショニング、工程の細分化を検討・実施した。 **（５）新規事業設立に向けて、希望する利用者の体験・実習の場を保証してスムーズな移行ができるように支援します。** 法人内各事業所とリネン事業に関する事業会議を持ち、希望者のニーズに応えるべく体験や実習を行った。開所が遅れたものの3名の方がスムーズに新規事業所へ移行することができた。
事業内容	【生産活動】 ◎パンの製造・販売 ◎菓子の製造・販売 ◎その他 点字製本請負、事業所内メンテ、なごみの里農作業、アロン化成作業、ぎょうれつ本舗 【活動・学習等】 人権学習、安全衛生学習、生産活動に係わる研修、レクリエーション、音楽ワークショップ、営業展開ミーティング

事業名	２８年度：工賃支給総額	平均工賃（月額）	２７年度：平均工賃(月額)
B型	7,089,305円	22,085円	26,458円

利用者数	定員	年度当初利用者数	途中入所者数	途中退所者数	年度末利用者数
	26名	31名	1名	7名	25名

平均年齢	35.9歳	平均区分	1.47	平均利用率	86.3%	開所日（月）	22.6日

平成28年度　行事等実施報告書（案）

ドリーム・あんです

項目 月	行事 B型	行事 就労移行	職員研修・職員会議等	災害訓練等	健康管理・衛生管理	その他
4月	12　法人入所式、16ﾊﾟｲﾛｯﾄｸﾗﾌﾞ販売	13　法人入所式	24　ｻﾏﾎﾘ会議		19　ﾀﾞｽｷﾝ食堂ﾜｯｸｽ掛け	26　藤美寮祭り会議
5月	19　日帰り旅行 29　ｾﾚﾏ販売	17　就職祝いの会	24　食品表示法に係る説明会 30　自立支援協議会全体会議	13　消防設備・電気設備点検 25　避難訓練		2家族会役員会議 20家族会総会
6月	4　藤美寮まつり販売 5　法人ｽﾎﾟｰﾂ交流会 8　うたごえ浜かぜ7周年記念事業販売	17-18宿泊研修	24.25　AED研修		27　ﾀﾞｽｷﾝﾄｲﾚ・ｺﾞｷﾌﾞﾘ駆除	20-24　ｱｾｽﾒﾝﾄ 27-7/1　新旭養護学校実習、ｱｾｽﾒﾝﾄ
7月	16　おこしやすﾄﾞﾘｰﾑ 22　ﾚｸﾚｰｼｮﾝ（京都）、23ﾊﾟｲﾛｯﾄｸﾗﾌﾞ販売		14.15　サービス管理責任者等就任予定対象者研修 31　高島市人権教育研究大会		27　ｺﾞｷﾌﾞﾘ駆除	27　電話機配線工事 11　トイレ修繕工事、26　天井内部工事
8月	6　本庄学区夏祭り販売 11　ｻﾏｰﾚｸﾚｰｼｮﾝ、19利用者研修 27　新旭養護学校夏祭り販売		19　自己覚知 23-24　福井ｽｲｰﾂﾌｪｽﾀ 30　目標工賃達成指導員研修	8　消防設備・電気設備点検	18ﾀﾞｽｷﾝ男子・身障ﾄｲﾚﾒﾝﾃ	22-26　京都女子大介護等体験受け入れ 24　ｻﾏｰﾎﾘﾃﾞｰ 27　親子パン教室
9月	25　ふくしまつり	2　日帰り旅行 14　働くための勉強会	26　SV研修		8　歯科検診	10　LED照明取り換え工事 12-30　新旭養護学校実習、ｱｾｽﾒﾝﾄ 17　市民活動ﾌｪｽﾀ会議 23　学童保育まつり会議、30セルプ協会議
10月	7　ﾚｸﾚｰｼｮﾝ活動 15　親子お菓子教室、西地区文化祭販売 16　学童保育まつり販売	14　働くための勉強会	18　上期事業総括会議 24　SV研修 27　優先調達ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ		14　給食嗜好調査 15　ﾀﾞｽｷﾝﾜｯｸｽ掛け 27　健康診断	20　新旭養護学校PTA見学
11月	6　ｶﾞﾘﾊﾞｰ文化祭販売 12　たかしま市民活動ﾌｪｽﾀ 19　糸賀音楽祭	7、14　働くための勉強会	1.29.30　ｻｰﾋﾞｽ管理責任者研修 17　安全運転管理者講習、19　食品表示法 27　法人人権研修、高島市人権のつどい			1　老上民児協施設見学 22　安曇川民生委員施設見学、赤い羽根共同募金監査
12月	3　親子お菓子教室 17　KOSEI 輝く芸術祭 26　クリスマス会		19　水害・災害説明会 20　魂のフリートーク	5　避難訓練・消防訓練		6　甲賀市社協見学 26　歳末見舞い活動（桑原組）
1月	7　虹の会成人式		10　人権教育基礎講座			
2月	18　家族会研修会販売		22　開発商品発表会 27　平成28年度事業総括	22　防犯訓練	22　ﾀﾞｽｷﾝﾄｲﾚﾒﾝﾃ	1～12　製造販売中止 18　家族会研修会
3月	18　ドリーム交流会	17　OB/OG交流会	9　高島市福祉施設協議会研修会		28　日映今津：ダクト掃除	23　滋賀県集団指導

※誕生会・月一会議　毎月工賃支払日

※あんです職員会議・営業展開会議：毎月第二火曜

事業所名：ドリーム・あんです（就労移行支援事業）

総括	平成28年度は管理職が1人の体制でスタートし、より連携を意識して事業を進めた。 就労移行支援事業では2年間の有期限で就労に向けた訓練や実習等行っている。今年度は個々のスタイルで計3名が就職することができた。しかし、職員の説明不足から相手企業にご迷惑をおかけした事、就職後すぐに離職されたこともあり、働き暮らし・応援センター等の関係機関や企業担当者との連携ならびに定着支援の重要性を再認識した。 就職に向けた支援を提供する中で、適切かつ強みを活かした支援を提供するにあたり、職員のスキルアップが必要不可欠であり、今後も継続して研修参加や検討会等実施していきたい。 施設整備面ではドリーム開所後13年が経過し、老朽化から機器の故障による買い替えや修繕を実施。また、経費削減や快適な環境となるよう、施設内の照明機器をLED照明に切り替えた。 家族会にもご協力いただいたふくし祭りやおこしやすドリーム以外にも交流会を実施することができ、交流や連携を深めることができた。
重点項目の振り返り	**（１）様々な働き方・仕事の在り方を理解し、地域の「働く場の開拓」に努めます。** 企業での就労経験のない方が多いため、訓練や実習を通して利用者と共に働くイメージを共有し、個々のニーズやイメージに寄り添った内容で職場開拓を行った。また、施設外実習では利用者だけでなく企業側の受け入れへの不安軽減に繋げるため連携を密にした。今年度は3名が個々のスタイルで就職することができた。 **（２）法人内の事業所を活用した作業体験と企業実習の場を確保して就労支援に取り組みます。** ドリーム内就労移行の中では習得しにくい訓練内容を、法人内事業所の機能を活用することにより、就労現場に近い環境でアセスメントすることができた。 **（３）職場定着支援の充実を図るために職業センター（ジョブコーチ）や働き・暮らし応援センター等の関係機関と連携を取ります。** 企業や利用者によって定着支援の形態も多様であり、企業との繋がりをより深めるための訪問を実施した。定着支援を行う中で、関係機関との連携の重要性を感じた。 **（４）「合理的配慮」の概念と「強みを活かした支援」という視点で、障がいのある人の働き続けられる就労支援を実施します。** 企業に個々の特性や情報、配慮をどのように伝えるかにより企業の捉え方も変化するため、強みを中心に情報提供を行い、定着に向けた支援を実施した。
事業内容	【生産活動】 ◎事業所外請負作業 清湖園（洗濯・メンテナンス）、清風荘メンテナンス、愛隣保育園、共栄精密株式会社 ◎法人内事業所での作業訓練 厨房作業、レストラン業務、リネン作業、パン・菓子製造、販売 ◎訓練・実習先 愛隣保育園、共栄精密株式会社、NPO法人元気な仲間 ◎その他 封筒・名刺の印刷

事業名	２８年度：工賃支給総額	平均工賃（月額）	２７年度：平均工賃(月額)
就労移行	2,364,053円	26,562円	29,354円

利用者数	定員	年度当初利用者数	途中入所者数	途中退所者数	年度末利用者数
	6名	9名	1名	3名	7名

平均年齢	29.8歳	平均区分	0.8	平均利用率	102.6%	開所日（月）	22.3日

平成28年度　行事等実施報告書（案）

ドリーム・あんです

項目 月	行事 B型	行事 就労移行	職員研修・職員会議等	災害訓練等	健康管理・衛生管理	その他
4月	12　法人入所式、16ﾊﾟｲﾛｯﾄｸﾗﾌﾞ販売	13　法人入所式	24　ｻﾏﾎﾘ会議		19　ﾀﾞｽｷﾝ食堂ﾜｯｸｽ掛け	26　藤美寮祭り会議
5月	19　日帰り旅行 29　ｾﾚﾏ販売	17　就職祝いの会	24　食品表示法に係る説明会 30　自立支援協議会全体会議	13　消防設備・電気設備点検 25　避難訓練		2家族会役員会議 20家族会総会
6月	4　藤美寮まつり販売 5　法人ｽﾎﾟｰﾂ交流会 8　うたごえ浜かぜ7周年記念事業販売	17-18宿泊研修	24.25　AED研修		27　ﾀﾞｽｷﾝﾄｲﾚ・ｺﾞｷﾌﾞﾘ駆除	20-24　ｱｾｽﾒﾝﾄ 27-7/1　新旭養護学校実習、ｱｾｽﾒﾝﾄ
7月	16　おこしやすﾄﾞﾘｰﾑ 22　ﾚｸﾚｰｼｮﾝ（京都）、23ﾊﾟｲﾛｯﾄｸﾗﾌﾞ販売		14.15　サービス管理責任者等就任予定対象者研修 31　高島市人権教育研究大会		27　ｺﾞｷﾌﾞﾘ駆除	27　電話機配線工事 11　トイレ修繕工事、26　天井内部工事
8月	6　本庄学区夏祭り販売 11　ｻﾏｰﾚｸﾚｰｼｮﾝ、19利用者研修 27　新旭養護学校夏祭り販売		19　自己覚知 23-24　福井ｽｲｰﾂﾌｪｽﾀ 30　目標工賃達成指導員研修	8　消防設備・電気設備点検	18ﾀﾞｽｷﾝ男子・身障ﾄｲﾚﾒﾝﾃ	22-26　京都女子大介護等体験受け入れ 24　ｻﾏｰﾎﾘﾃﾞｰ 27　親子パン教室
9月	25　ふくしまつり	2　日帰り旅行 14　働くための勉強会	26　SV研修		8　歯科検診	10　LED照明取り換え工事 12-30　新旭養護学校実習、ｱｾｽﾒﾝﾄ 17　市民活動ﾌｪｽﾀ会議 23　学童保育まつり会議、30セルプ協会議
10月	7　ﾚｸﾚｰｼｮﾝ活動 15　親子お菓子教室、西地区文化祭販売 16　学童保育まつり販売	14　働くための勉強会	18　上期事業総括会議 24　SV研修 27　優先調達ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ		14　給食嗜好調査 15　ﾀﾞｽｷﾝﾜｯｸｽ掛け 27　健康診断	20　新旭養護学校PTA見学
11月	6　ｶﾞﾘﾊﾞｰ文化祭販売 12　たかしま市民活動ﾌｪｽﾀ 19　糸賀音楽祭	7、14　働くための勉強会	1.29.30　ｻｰﾋﾞｽ管理責任者研修 17　安全運転管理者講習、19　食品表示法 27　法人人権研修、高島市人権のつどい			1　老上民児協施設見学 22　安曇川民生委員施設見学、赤い羽根共同募金監査
12月	3　親子お菓子教室 17　KOSEI 輝く芸術祭 26　クリスマス会		19　水害・災害説明会 20　魂のフリートーク	5　避難訓練・消防訓練		6　甲賀市社協見学 26　歳末見舞い活動（桑原組）
1月	7　虹の会成人式		10　人権教育基礎講座			
2月	18　家族会研修会販売		22　開発商品発表会 27　平成28年度事業総括	22　防犯訓練	22　ﾀﾞｽｷﾝﾄｲﾚﾒﾝﾃ	1～12　製造販売中止 18　家族会研修会
3月	18　ドリーム交流会	17　OB/OG交流会	9　高島市福祉施設協議会研修会		28　日映今津：ダクト掃除	23　滋賀県集団指導

※誕生会・月一会議　毎月工賃支払日

※あんです職員会議・営業展開会議：毎月第二火曜

事業所名：ドリーム・だんだん

総括	平成28年度は管理職が1人の体制でスタートし、より連携を意識して事業を進めた。通所状況では年度途中に2名が通所（8月、11月）、1名が退所（11月）され、41名の利用者に通所いただいた。生産活動では滋賀県社会就労事業振興センターより自主製品の受注を受けたこと、あんですと連携して行ったアロン化成の下請け作業にも取り組み、昨年以上の売り上げとなった。利用者一人ひとりの頑張りや作業スキルの向上を感じることができた。また、職員体制では法人内新規事業所の開所に伴い、年度途中の人事異動もあったが、より強く連携する意識を持ち実践することでカバーすることができた。初めての取り組みとして、2月に今津警察署の協力のもと防犯訓練を実施し、開放している施設環境の中で防犯対策の必要性を感じる訓練となった。 一方で、今年度の事故報告9件中8件が利用者関係の内容であり、職員の支援スキルの向上や家族・関係機関と連携した取り組みの重要性を再度確認した。 施設整備面ではドリーム開所後13年が経過し、老朽化から機器の故障による買い替えや修繕を実施。また、経費削減や快適な環境となるよう、施設内の照明機器をLED照明に切り替えた。 家族会にもご協力いただいたふくし祭りやおこしやすドリーム以外にも交流会を実施することができ、交流や連携を深めることができた。
重点項目の振り返り	**（１）自分自身の役割を明確にし、実行できる職員集団を目指します。** 職務分掌表や新人事評価制度における等級基準表を日々意識して取り組んだ。 **（２）職員の資質向上に努め、よりよいサービスの提供・人権尊重・虐待防止に繋げます。** 日々のミーティングや職員会議等で課題を確認・検討・共有し、利用者支援に繋げることができ、新たな支援を構築することができた。 **（３）地域のカフェや各イベントで展示即売を実施し、D.dandanブランドを広めます。また、作業会議を定期的に行い仕事に対する意欲を高めます。** 各種イベントに積極的に参加した。また、利用者の働く意欲の向上に向け、環境整備や作業の流れの可視化を行った。 **（４）新たな交流・連携の場を設定し、地域の方々に還元すると共に障がい理解の普及啓発に努めます。** おこしやすドリーム以外の地域イベントに参加し、販売や体験・活動を通して利用者と地域の皆様と交流する場となった。
事業内容	【療育活動・生活支援等】 ◎健康・衛生支援（月1回看護師配置） バイタルチェック、栄養指導、ブラッシング、ストレッチ、ラジオ体操、ダンス、軽スポーツ、音楽療法等 ◎文化的活動 音楽、手話、絵画、制作、ワークショップ、初釜、花見、季節の行事等 ◎その他 調理、イベント参加等 【生産活動】 ◎リサイクル事業 フェルト商品、さをり織り商品、その他D.dandanブランド商品 ◎受託事業 運動公園清掃作業、平和堂花壇管理、トイレメンテ、草刈り、箱折り、糊袋詰め作業、アロン化成作業 ◎その他事業 展示会、イベント販売、インターネット販売、cocco販売、体験

事業名	２８年度：工賃支給総額　平均工賃（月額）		27年度：平均工賃(月額)
生活介護	2,516,875円	5,436円	3,637円

利用者数	定員	年度当初利用者数	途中入所者数	途中退所者数	年度末利用者数
	28名	40名	2名	1名	41名

平均年齢	38.6歳	平均区分	4.2	平均利用率	105%	開所日（月）	21.5日

平成29年度　行事等実施報告書（案）

ドリーム・だんだん

項目 月	行事		職員研修・職員会議等	災害訓練等	健康管理・衛生管理	その他
4月	12 法人合同入所式		24ｻﾏﾎﾘ会議		19 ﾀﾞｽｷﾝ食堂ﾜｯｸｽ掛け	
5月		6 ﾏｷﾉﾒﾀｾｺｲﾔﾏｰｹｯﾄ	16.23.30ｽﾃｯﾌﾟⅠ研修	13 消防設備・電気設備点検	21 ﾀﾞｽｷﾝ作業室ﾜｯｸｽ掛け	2家族会役員会議
			30自立支援協議会全体会	25 避難訓練		20家族会総会
						31 高島市福祉施設協議会
6月	5 法人ｽﾎﾟｰﾂ交流会	5 森のおさんぽマルシェ	7-9ｽﾃｯﾌﾟⅠ研修		27 ﾀﾞｽｷﾝﾄｲﾚ・ｺﾞｷﾌﾞﾘ駆除	2 新旭北小学校実習打ち合わせ
	24 日帰り旅行	7 うたごえ浜かぜ7周年記念事業	24.25AED研修		30 内科検診	27-7/1 新旭養護学校実習
		26 ｾﾚﾏﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ、大阪ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ				27更生保護女性の会来所、29今津日赤奉仕団ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ
						30 新旭北小学校福祉体験
7月	16 おこしやすドリーム		14-15.28 相談初任者研修		27 ｺﾞｷﾌﾞﾘ駆除	2 電話機配線工事
			21-22 強度行動障害研修			11 ﾄｲﾚ修繕工事
			29精神障害研修、31高島市人権教育研究大会			26 天井内部工事
8月	11 ｻﾏｰﾚｸﾚｰｼｮﾝ	6 本庄学区夏祭り	1.8.10ｽﾃｯﾌﾟⅠ研修、19自己覚知	18消防設備・電気設備点検	18 ﾀﾞｽｷﾝ男子・身障ﾄｲﾚﾒﾝﾃ	2-4 湖西中学福祉体験
			24-25 相談初任者研修			12 ｻﾏｰﾎﾘﾃﾞｰ
			31発達障害支援講座、作者の権利保護研修			24 今津日赤奉仕団ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ
9月	25 ふくし祭り		8 OJT研修、14ｸﾞｯｽﾞ制作と販売について		1 歯科検診	10 LED照明取り換え工事
			26 SV研修			26-30 新旭養護学校実習
10月		15 親子お菓子教室	6 口腔ｹｱ研修、7 視察研修		14 給食嗜好調査	3-7 新旭養護学校実習
		16 高島市学童保育まつり販売	13 障害者差別解消法研修		15 ﾀﾞｽｷﾝﾜｯｸｽ掛け	20 新旭養護学校PTA見学
			21 視察研修、24 SV研修		27 健康診断	26 今津日赤奉仕団ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ
11月	13 虹の会20周年	6 ｶﾞﾘﾊﾞｰ文化祭販売	1 ｻｰﾋﾞｽ管理責任者研修		4 ﾀﾞｽｷﾝﾄｲﾚﾒﾝﾃ	1 老上民児協施設見学
	19 糸賀音楽祭	18 福祉の職場説明会ｺｰﾋｰ販売	16 発達障害の人の医療面の支援			15.16 旭化成跡地草刈
			17 安全運転管理者講習 27法人人権研修			22 安曇川民生委員施設見学、赤い羽根共同募金監査
12月	17 KOSEI輝く芸術祭	18 はじまりのアート展見学	10 高島市障がい者虐待防止法普及啓発事業講演会	5 避難訓練・消火訓練		6 甲賀市社協見学
		26 クリスマス会				26 歳末見舞い活動（桑原組）
			16 OJT研修、19 水害・土砂災害説明会			16 今津日赤奉仕団ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ
1月	7 法人成人式	11 初釜	10 人権教育基礎講座		.	
2月			18 家族会研修会	22 防犯訓練	22 ﾀﾞｽｷﾝﾄｲﾚﾒﾝﾃ	22 今津日赤奉仕団ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ
3月	11 ﾄﾞﾘｰﾑ交流会	3 リフレッシュ活動	9 高島市福祉施設協議会研修会			23 滋賀県集団指導
			10 平成28年度事業総括			

※その他会議等 （自立支援協議会・ケース会議・管理職会・主任会・給食会議・伝達研修　等）

事業所名：ハーモニー

総括	入退所による契約者数の増加（変動）と共に年齢や障害特性の幅がより広くなり、活動内容・支援内容への多様性に対応する質の向上・環境設定の構築が今まで以上に求められる年度であった。前期は、新しい環境に慣れ関係性を築き互いを理解し認め合う時期で問題や課題が顕在化し、ケース会議や家族・関係機関との連携を重ねて対応した。後期は、色々な行事を経験しながら互いを受け入れ、全体が落ち着き始め穏やかな雰囲気が戻ってきた。集団で活動すること、個別に活動すること、それぞれに合った形の支援が出来るように試行錯誤しながら配慮した。 作品展・ぴかっtoアート展（5名入選・内１名佳作）・カレンダー制作・販売の取り組みは一定の成果を得ることができたと思う。今後もハーモニーの特徴として、利用者の表現と職員の創意工夫をコラボさせた取り組みを積み上げていきたい。 家族会も新しい家族を迎え、これまで以上に活気ある家族会となり、会議・行事に積極的に参加・協力してくださり心強く感じている。
重点項目の振り返り	**（１）誰もが安心して通所できるように、個人の生活スタイルを尊重し、ニーズを大切にします。** 個人の障害特性や家族の都合に協力し、その都度臨機応変に送迎体制を組み変えると共に安全運転には十分配慮して通所できるように努めた。また、添乗職員が付いても安全確保が難しい場合は個別対応をしている。 **（２）活動を複合して地域へ発信していきます。** 福祉まつり、作品展、カレンダー制作・販売を中心に、日々の活動から生まれてきたものを組み合わせて地域へ発信している。今後も継続して取り組んでいくには、計画性・実行力にプラスしてアピール方法に工夫を凝らす必要があると感じてい る。 **（３）支援の統一を図るために、マニュアル化出来ることはしていきます。** 個人に応じたマニュアルと集団のマニュアルを進めているが、実際に活用して見直したり、また、作成すれば良いではなく、利用者の状況や環境に柔軟に対応する為にその都度改良していく必要があり、支援の一つのツールであることを理解し活用している。 **（４）自分自身の役割を明確に持ち、理念の実践を目指します。** 人事評価導入によるプレ評価や自己目標シートにより役割を明確に持ち、業務に従事できるようになってきた。また、理念の実践を目指すのは虹の会職員としてあるべき姿であり、与えられている役割と絶えずお互いに他者の様子を気に掛けながら、思いやり助け合い寄り添う「共に」の精神は一人の人間として質を高め利用者・職員の心地良い環境つくりに繋がっている。
事業内容	【運動】ウォーキング、ストレッチ体操、軽運動、散策 【音楽】音楽療法、ミュージックケア、カラオケ 【健康・生活】血圧、脈拍、体重測定、食事介助、排泄介助、口腔ケア、希望による入浴支援、健康診断、内科検診、歯科検診 【創作】陶芸、絵画、手芸、制作、作品展開催、ぴかッtoアート展、KOSEI輝く芸術祭、養護学校文化祭出展 【美化】施設内外の清掃 【園芸】四季を通して色々な野菜・植物を育て収穫した物をみんなで頂く 【ハンドメイド】設定した活動から見えてきた個人の興味関心や可能性を発展させ、好きな活動に継続して取り組みながら心の安定や活動の展開に繋げている。 【その他】法人合同行事、家族会との合同行事、福祉まつり、避難訓練、人権学習、展覧会鑑賞、日帰り旅行、食事会

利用日数	定員	年度当初利用者数	途中入所者数	途中退所者数	年度末利用者数
	20名	３１名	１名	２名	３０名

平均年齢	40.1歳	平均区分	4.6	平均利用率	110.5%	開所日数（月）	21日

平成28年度　行事等実施報告書（案）

ハーモニー

項目 月	行事	職員研修・職員会議等	防災・安全等訓練	健康・衛生管理	その他
4			＊自主点検（毎日）		
	13　入所式		1　ALSOK設備等点検	8　手洗い指導①	3/28～4/3　養護学校卒業生5名と利用契約
	29　開所日（調理実習・ビンゴゲーム）		28　避難訓練		28　聾唖学校（卒業後の様子見学）
5	7　開所日（調理実習・軽運動）	6　安全運転研修（谷口総合保険）			12　家族会総会
		20　リスクマネジメント委員会より、インシデントメモについて			
6	5　開所日（スポーツ交流会）			1　虫歯予防の話	5　家族会BQ打合せ・スポーツ交流会見学
			30　避難訓練・消化訓練		20～24　新旭養護学校実習受け入れ（1名）
7	2　開所日（家族会バーベキュー大会）	4・25　ステップⅡ			1　利用契約（他施設から移行1名）
	21　人権学習会	17　ミュージック・ケア1日体験セミナー			1　新旭民生委員見学
		21・22　強度行動障害支援者養成研修			2　家族会バーベキュー交流会
		28　サマーホリデーボランティア		30　歯科健診・ブラッシング指導	
8	6　開所日（調理実習・夏祭り）	2　障害児の進路に関わる懇談会		17　夏バテ防止の話	
		19　自分を知る＝自己覚知		19　手洗い指導②	28　家族会　福祉まつり打ち合わせ
			31　避難訓練	27　内科健診①	
9		7　湖北アール・ブリュット懇話会			10　家族会（福祉まつり打ち合わせ）
	16　日帰り旅行（京都太秦映画村）	14　強度行動障害専門家チーム巡回			24　家族会福祉まつり準備
	25　開所日（新旭ふくしまつり）	26　主任会SV研修（自己分析と相談援助の基本姿勢）			25　家族会福祉まつり出展
10		6　口腔ケア講座	3　ALSOK設備等点検		
	10　開所日（調理実習・手品鑑賞）	24　虐待チェックリスト1		14　栄養についての話	10　家族会（福祉まつり反省会・慰労会）
	29　開所日（調理実習・県スポーツ）	24　主任会SV研修（カウンセリングとケースワークの相違）			
		25　滋賀県知的ハンディをもつ人の福祉協会「支援スタッフ委員会			
		30　「エンディングノー」上映会			
11		1　サービス管理責任者養成研修（地域生活）			
	5・6　ぴかっtoアート展鑑賞	4　伝達研修（口腔ケア）			
		5　障害者差別禁止条例を滋賀県にも（共に生きよう・堂々と生きよう）	22　水害についての講習会（県）		
	13　開所日（法人20周年記念祝賀会）	14・15　初級リスクマネージャー養成講座①			
		15　文化の集い			21　家族会（餅つき打ち合わせ）
		27　法人人権研修（インターネットと人権・アンガーマネジメント）			
		28　主任会SV研修（SVの機能とコンサルテーション）		30　健康診断	
		29　強度行動障害専門家チーム巡回			
12	8～11　ハーモニー作品展				
	16　クリスマス会		21　受信機バッテリー交換		8　赤とんぼ（利用者との交流・作品展見学）
	17　はじまりのアート展鑑賞	14・15　サービス管理責任者養成研修（地域生活）	誘導灯バッテリー交換		16　たまあず（南京たますだれ）
	17 開所日（KOSEI輝く芸術祭参加）	26　主任会SV研修（SVにおけるロールプレイと事例検討）			＊オリジナルカレンダー販売（12～）
1	7　開所日AM（成人祝いの会）		10　AED研修	13・16　手洗い指導	7　もちつき大会
	7　開所日PM（家族会合同餅つき大会）	25　虐待チェックリスト	31　避難訓練		＊サービス自己評価
2		9・10　初級リスクマネージャー養成講座②			
		10・16・27　ステップⅡ			
		16・17　第53回近畿地区知的障害関係職員研修会			
		19　身体障害者福祉協会研修会			
		20　主任会SV研修（SVまとめとストレスマネジメント）		15　内科健診②	
3		9　高島市福祉施設協議会研修会「いま改めて貧困の問題を考える」			4　家族会（活動の概要と今後・反省）
	4　開所日（調理実習・茶話会）	9　精神障害者の理解と基本的対応について			
		19　摂食嚥下障害へのとりくみ	21　避難訓練		※送迎車にドライブレコーダー設置

※　誕生会（毎月）
※　職員会議（第2第4金曜日17:00～）
※　その他会議（自立支援協議会全大会・定例会、発達障がい部会、精神保健福祉部会、サービス担当者会議、個別支援会議等）
※　法人内会議（管理職会、主任会、各種委員会等）

事業所名：ひまわり生活の家

総括	利用者の障がい特性や、思い・困り事を理解し、職員が同じ支援をすることで、利用者の混乱を防ぎ・利用者の生活の質を高めることを目指した事業展開に取り組んできた。また、事故を未然に防ぐために、危険と思われる状況をインシデントメモとして記録し、会議で想定される事故・対策を話し合い、支援に繋げた。 利用者の高齢化に伴い、ケアマネージャーとの連携を深めることで、入浴支援・デイサービス利用・通院同行等で手厚く対応が出来るようになった。 各ホームでは、一人のキーパーが、利用者対応の全てを行う場面が多く、細かい部分の支援が出来ないため、支援者が頻繁に巡回を行い、利用者支援・職員の相談ができる体制を作るように心掛けた。ただ、キーパーの人材不足で、支援者がキーパー業務に入ることが多くあり、支援の充実は難しかった。 次年度は、きめ細かな支援体制が取れるように、キーパーの補充・新設ホーム建設に向けた動き・消防法による設備の強化・感染症発生時の対応・マニュアル作成・キーパーと家族の連携強化の課題がある。
重点項目の振り返り	**（１）心豊かな生活に向けた支援の充実** 利用者の思いを聞き取る時間を確保し、キーパーと一緒に話し合い支援内容を検討している。キーパー会議では、利用者の生活の質（心身の健康・基本的な生活スキル・良好な人間関係等）をどうすれば高められるのか、支援の方向性を確認しながら取り組むことができた。 利用者交流会では、ピエリ買い物又は、カラオケから選択してもらい班単位での活動と、全体での新年会に取り組んだ。班分けをすることで、人数の多さが気になる利用者も参加ができた。 地域包括支援センター等との連携から、デイの利用・高齢の方の入浴方法・転倒予防装具取り付けが進み、支援内容が広がってきている。 **（２）安全対策の実施** 各ホームの、防災カバンの中身点検・災害時の避難場所確認・電化製品の安全な使い方（ドライヤー）を奇数月に行うことで、防災意識を高めることができた。 インシデントメモの活用で、常に危険を察知できる意識を高める事が出来ている。 **（３）職員の資質向上** 利用者の特性を知り、願いを受け止め、その人の生活全般にわたって支援ができる職員を目指し、ホーム会議では支援のしづらさについて特性からの対応内容を話し合い、利用者理解を深めた。また、全国グループホームスタッフ・ネットワークから、ハンドブックを取り寄せ研修を行った。他の法人での取り組みや困り事を知ることで改善策の参考になったとの感想があった。 市・法人の人権研修に参加していくことで、人権意識を高めている。 **（４）新たな事業展開の検討** 高齢者プロジェクト委員会を開催し、高齢になってもホームで安心して暮らせるためにはどのような設備や支援が必要なのかを話し合ってきた。高齢者に限らず24時間見守りが必要な方も安心して暮らせるホームをつくる方向性で一致した。国庫補助金申請を行う予定だったが、見積額と補助金額の差が大きすぎるため、今年度は見送り、29年度に現実的な図面を作成し見積を取り、国庫補助金申請が出来るように取り組むことになる。
事業内容	・8ヶ所ホーム定員42名　契約者40名 ほがらか（5名）、ひまわり（5名）、さくら（5名）、太陽（6名） すみよし（4名）、さかえ（5名）、アーカス（6名）、よこまち（6名） ・朝と夜の食事提供、権利擁護事業と連携した金銭管理の援助、日常生活相談、入浴や居室清掃支援等、生活の質（心身の健康・基本的生活スキル等）や社会性の向上などに努めている。 ・地域との関わりを深めるため、町内会の活動や防災訓練にも参加している。

利用者数	定員	年度当初利用者数	途中入所者数	途中退所者数	年度末利用者数
	42名	41名	2名	3名	40名

平均年齢	40,6才	平均区分	3,23	平均利用率	85%

平成28年度　行事等実施報告書（案）

ひまわり生活の家

項目 月	行　　事	職員研修･職員会議等	災害訓練等	健康管理･衛生管理	その他
4	13　入所式	20　ほがらか会議 22　太陽会議 25　よこまち会議			29　連休お楽しみ会
5		13　キーパー全体会議	防災学習		3　連休お楽しみ会 11　消防設備点検
6	5　スポーツ交流会	20　ひまわり会議 24　すみよし会議 29　ほがらか会議			
7	10　ホーム交流会（ピエリ買い物）	6　さくら会議 12　アーカス会議 22　さかえ会議	防災学習	熱中症予防案内配布	21　アイリス家族会見学（さくら・ひまわり） 14　ホーム体験1名（次年度に向けて）
8	15　食事会	23　よこまち会議			2　風の会見学 10　家族会学習会
9	25　ふくしまつり	8　太陽会議 16　アーカス会議 20　ほがらか会議 27　ひまわり会議	防災学習 16消防署立ち入り検査	食中毒注意報案内配布	
10	23　ホーム交流会（あそびば）	7　さかえ会議　　13　差別解消法 12　さくら会議 18　よこまち会議 28　すみよし会議		19ヨシケイカロリー会議	7　高齢者プロジェクト委員会 21　高齢者プロジェクト委員会 21　家族会・法人会議
11	13　法人20周年式典	18　キーパー全体会議（栄養について研修） 14･15　リスクマネジメント研修	防災学習	インフルエンザ予防接種 18栄養士研修	18･24　多胡理事巡回
12	31　食事会	16　労務研修 7　さくら会議 9　すみよし会議 13　さかえ会議 16　よこまち会議		インフルエンザ予防接種 食中毒注意報案内配布　2回	
1	7　成人式 21　ホーム新年会	11　ほがらか会議 17　アーカス会議 23　ひまわり会議 27　太陽会議	防災学習（防災グッズ点検）		30　高齢者プロジェクト委員会
2		9･10　リスクマネジメント研修 10　太陽会議 8　さくら会議 17　すみよし会議 24　よこまち会議 28　さかえ会議			
3		23　県集団指導 24　ホーム全体会	防災学習	食中毒注意報案内配布	21　家族会総会

※その他会議　（自立支援協議会・発達障害会議・就労支援会議・ケア会議・ケース会議・各グループホーム会議・管理職会議・運営委員会・主任会議・給食会議　等）

※その他実習受け入れ

事業所名：高島市障がい者相談支援センターコンパス

総括	今年度より計画相談支援部門を「虹」と一本化することになり、コンパスについては指定特定相談支援事業所が提供する相談業務とは異なる役割をより明確化していく事となった。市町村の実施する地域活動支援事業における、相談支援事業の委託を受け基幹相談支援センターについては、通常の市町村における相談支援事業が適正かつ円滑に実施される一般的な相談支援事業に加え、専門的職員を配置する事や地域の相談支援専門員等へバックアップ、資源をはじめとする情報収集・提供、人材育成の支援などの取り組みを実施することにより相談支援の機能強化を図った。 各特定相談支援事業所が新規ケースの契約受入れが非常に厳しくなっている現状を受け、安定的かつ継続的に計画相談支援が提供できる仕組みについて、地域関係者とともに協議を進めて行くため、相談支援連絡会を通して定例会へ課題提起しプロジェクトチームを設置し、２９年度に具体的な提言を取りまとめて行く事とした。 個別相談においては訪問支援、来所相談、同行支援、電話での相談、関係機関との連携等いずれも前年度より大きく伸びた。来所相談や関係機関からの問合せが増加してきている背景にはコンパスが開設され５年が経過し、総合相談窓口として認知度が上がってきているのと同時に、制度の枠を超える横断的な課題が背景にあり、他職種・他機関との連携調整を含む相談に対するニーズが多くなっていることが一つの要因と思われる。 これまで身近な関係者に支えられながら生活して来られた方々においては、各種制度による相談窓口が充実し明確になってきた事で、福祉サービスを始めとする多様な支援・制度の活用による課題解決への期待も大きい。相談窓口につながる事でこれまでの支え手とのつながりを終えてしまわない様、ご本人や関係者に安心を提供し、新たなつながりを一緒に再構築していくように務めた。 基幹相談センターでは、総合的・専門的な相談支援の他に自立支援協議会の事務局運営や地域関係者とのネットワークづくりを関係者と共に進めた。中心となる職員を配置し、事務局運営が充実するよう体制を整えた。
重点項目の振り返り	**（１）総合相談センターとしての機能の充実を図り、個々のニーズに寄り添いながら当事者の声を地域社会づくりへつなげていきます。** 相談支援専門員（特定相談支援事業所）が対応する個別ケースから見えてくる課題について、相談支援連絡会（月１回）の場で報告を受け、自立支援協議会へ積極的に提起される仕組みの構築を進めた。 当事者団体の集まりの場に積極的に参画しながら、市民との交流などをバックアップすることで地域に「障がい理解」がすすめられるよう努めた。 **（２）高島市障害者自立支援協議会の機能を有効に活用していくため、各部会での取り組みの評価を実施し、成果と課題を定例会で共有することにより地域づくりに反映していきます。** 各部会において進められている年度計画に対し、取り組みの成果と課題を全体会で報告し評価を受ける。各部会の年間の動きが全体として把握できるよう進捗管理表を作成し見える化した。定例会で積極的に取り入れたグループワークについては、同じテーマに基づき多方面からの協議を重ね深めていくことで、地域の課題の共有化を図った。 定例会・全体会等の会議資料については事前配布（１週間前）を基本として、質問シート等も取り入れながら、協議会メンバーがより関心を持って会議に参画していただける工夫をした。また、自立支援協議会設置要綱について、現状との整合性をはかるため大幅な見直しを実施した。 **（３）人材育成のための事例検討会や研修会等の企画運営を行います。** 相談支援連絡会　事例検討会を実施した。 対人援助従事者のための「自己覚知」や「アンガーマネジメント」研修企画・運営 自立支援協議会部会で取り組まれる事例検討会や研修会の事務局を担い、地域関係者の人材育成に努めた。 **（４）地域住民への障がい理解の普及啓発を行います。** イベント参加、コンパス通信の発行（２回）、ホームページ、市広報、オープンコンパスの取組み等多方面からの情報発信に努めた。コンパスのパンフレットについても内容を整理し刷新した。コンパスを身近に感じてもらい、障がいのある人の地域での暮らしの中の「困りごと」等を知ってもらう機会の提供を積極的に図った。 自立支援協議会の各専門部会の事務局を担い市民向け講演会、公開講座等の企画・運営により地域住民に対して正しく障がい理解を進めていくための取組みを行なった。課題としては、今後より多くの市民に参加していただく工夫等を、他の福祉分野の関係機関とも連携しながら考えて行きたい。 **（５）一般相談支援事業（地域移行・地域定着）の活用による安定した地域生活のコーディネートを実施します。** 地域の新たな受け皿づくりとして、病院が実施する「デイケア」や他圏域にある退院後の居場所となる「地域活動支援センター」等が高島圏域には整備されていないため、定例会から「精神障がいのある人たちの新たな居場所等」について課題提起され、平成２９年度精神保健福祉部会で検討することになった。病院を退院しても行き場の無い人、地域や家族から孤立してしまっている人たちが再び社会とのつながりが持てるための必要な資源について協議を進める事となった。

事業内容	基幹相談支援センター（市） ・総合的・専門的な相談支援 ・高島市障がい者自立支援協議会の事務局運営委託 ・地域相談支援体制の整備 ・権利擁護・虐待防止（平成27年高島市障がい者虐待防止法普及啓発事業受託） ・地域移行・地域定着の促進 その他の事業 ・認証発達障がい者ケアマネジメント支援事業(県)、発達障がい者支援チーム事業(市) ・滋賀県精神障害者相談支援体制整備事業(県) ・都道府県相談支援体制整備事業　障害児(者)地域生活ネットワーク支援事業(県) 指定特定相談支援事業（基本相談支援・サービス等利用支援・継続サービス等利用支援） 指定一般相談支援（地域定着支援・地域移行支援）

【新規利用登録状況】　（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	7	1	7	10	7	4	6	3	6	4	9	5	69
累計	751	752	759	769	776	780	786	789	795	799	808	813	

【対応実人員】　（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間利用実員
人数	128	107	117	120	125	131	122	119	121	121	145	135	365

【相談件数】

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	合計
訪　問	42	52	47	52	63	46	60	49	67	54	43	64	639
来　所	39	35	39	41	43	40	40	28	42	25	28	46	446
同　行	21	17	24	31	29	28	12	20	20	19	21	24	266
電　話	358	294	347	339	408	431	320	285	298	347	300	393	4120
メール	63	39	62	33	33	29	36	92	41	48	75	39	590
小　計	523	437	519	496	576	574	468	474	468	493	467	566	6,061
個別支援会議等	34	8	19	30	24	27	24	29	17	23	47	18	300
関係機関	435	327	485	460	516	511	417	426	392	340	445	475	5,229
合計	992	772	1,023	986	1,116	1,112	909	929	877	959	959	1,059	11,590

事業所名：高島市生活困窮者等就労準備支援ホップ

総括	平成28年度6月から3月までの事業の利用者は8名。年齢層は25歳から57歳、男性6名と女性2名だった。その内生活保護世帯の利用は2名だった。また、1名は、就労準備以前の生活課題が大きく支援に時間を要するため、3月で就労準備支援計画の修正を行いコンパスに引き継ぎ利用中断となった。3月末の時点での就労状況は、一般就労者はゼロ、毎日１ｈ程度のアルバイト従事者が1名、マーブルでの実習者3名（有償）、傍楽体験参加者が2名（有償）である。求職活動はするものの、履歴書の長期の空白や離転職等が不利益となっている。 利用の状況も、計画通りの通所ができる人とできない人と二極化している。支援をしていく中で、本人理解（生育歴や学齢期の情報収集）を深めるために、親や家族との関わりの必要性を感じ出会った。そこで、「家族も何処に相談して良いか分からず、家族だけで抱えてきた。わが子の事を隠してきた。親が死んだらと思い相談に行った。」との本音が聞けた。 生き辛さ、働き辛さは、本人だけの問題（個人の資質や能力）ではなく、人為的につくられた社会の仕組み（労働施策、社会保障、教育制度の必然）によって生み出されたものであることにも気付いてもらい、我が子理解にも繋がった。 ホップ利用者の感想として、「働いたお金で欲しいものが買えた。働いている感じがした。家にいる事が暇に感じる。人との出会いの場になった。利用が終わったらどうしようと思う。」等があった。 平成29年度には、今年度利用した人すべてに終了の時期が来る。1年のこの事業を有効活用するためには、関係者の協働と相談支援から事業に繋ぐ入り口の課題と期限終了後就労に結びつかなかった人の出口の問題がある。次年度、関係者の運営会議で出口資源についての協議と実践の一歩を進めたい。
重点項目の振り返り	**（１）高島地域の生活困窮者の多様で複合的な課題理解をします。** 利用に繋がった本人自身が持つ背景要因の共通として「疑わしき障がい」があり、親を主とする家族やこれまでに関わってきた周囲の人の理解がなく、生き辛さ働き辛さとなっている。手帳の取得、障害年金受給申請、医療機関への受診等の支援をし、自己理解、家族への本人理解に働きかけた。職歴がない人は自己理解に時間を要し、本人や家族が持つ偏見が壁になり障がい受容が困難である。自動車免許証は取得（期間と費用を掛けて）しているが、車の維持が不可能になり手放したり、家族が使用するため、運転の機会が少なくなり、結果的にペーパードライバー化してしまう。その為交通手段は、自転車や原付のみとなり求職活動にも支障が出ている。 **（２）先進地研修や国等が開催する研修、専門知識や技術習得をして研鑽をつみます。** 子ども・若者支援に関する公開講座（5回）滋賀県発達障害者支援センターの公開講座（4回受講）講師は、子どもの心の診療所医師や医療研究センターの医師等であり、臨床の現場での分かりやすい内容だった。思春期青年期のネット・ゲームへの依存～家族・支援者の関わりについて～の講義では、ネット依存に陥る原因として家庭環境や本人特性、人間関係の要因が潜んでいる。関ったケースから知識も実感できた。 日々進歩していく専門分野の情報収集については、研修機会を大切にしていく必要を感じている。 **（３）主役は地域であり、関係機関と協働し、地域の支援体制を創造します。** 就労準備支援事業は、有期限1年が短いと言う事業のつくり込みの課題がある。自立相談支援事業の入口の課題（生活困窮者の状況に応じたアセスメントと自立生活のための必要プラン）の共有と協働、利用1年後の出口の課題（安定した一般就労には結びつきにくい。）関係者がバトンタッチをするような支援ではなく、関係者チームでの支援が必要であると言う反省に立ち、次年度は5回の運営に関する会議と具体的な課題検討会議や個別ケース会議を必要に応じて開催することを確認した。 **（４）就労準備支援プログラムを関係機関のアドバイスをもらい作成します。** 滋賀の縁創造実践センターの「傍楽体験」（リネン作業実習）は、支援者側の就労アセスメントの場として活用できた。また、体験する人にとっても、交通費程度の報酬と昼食がその場で頂けたのは、すごく魅力的だった。アート活動（創作・模写：塗り絵）、スポーツ交流会（ニュースポーツ）、買い物、PC練習を希望もあって後半のプログラムに入れた。7、8人になったことで、週間の日課表を作成した。

事業内容

【支援に関する状況】

	日常生活自立	社会生活自立	就労自立
内　容	・生活習慣の改善 ・心身の健康状態の改善 ・計画性の向上	・コミュニケーション能力の向上 ・社会的つながりの改善 ・自己肯定感、自尊感情の向上	・就労意識の向上 ·求職活動状況の改善 ・就労に必要な知識や技術の習得、職業選択機会の拡大
個別支援	・生活リズムチェック表記載・分析・評価・課題整理 ・面談 ・医療機関受診支援	・働く体験や実習の機会提供 ・ボランティア体験 ・自動車・バイク免許取得支援	・企業トライワーク ・傍楽体験（縁事業） ・マーブル作業実習 ・期間限定アルバイト ・求職活動・職業適性検査 ・学習（PC/計算/文字）
集団支援	・体力づくり・身体ほぐし・スポーツ交流会 ・調理実習・宿泊体験	・自己PR、ディスカッション ・社会人としてのマナー	・働くための勉強会セミナー ・社会保障制度の学習

【利用者の推移】　（単位：人）

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	３月	合計
生保	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
生保外	2	0	1	0	1	1	0	1	0	0	6
中断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	-1
終了	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	0	2	0	1	1	0	1	1	-1	7

事業所名：マーブル

総括	平成28年11月25日に開所式・内覧会を開催し、12月1日より鉄道リネンサービス株式会社と提携した事業展開をスタートさせた。2台の大型機械ロールアイロナー（手動・自動たたみ機）を有効活用するためには、作業従事者17名必要。12月は繁忙期でもあって利用者・職員とボランティアやホップの作業実習生を確保して取り組んだ。1月20日以降から3月20日頃までは、閑散期となり作業環境の再構築や作業スキルアップの支援に取り組んだ。4ヶ月を振り返ると作業稼働日数：105日（月平均:26日）、ピロ生産枚数：845,191枚（1日の平均出荷数：8,049枚）、1日の平均作業時間：6H（内休憩：10分×3～4回含む）だった。利用者の作業スキル（スピード・効率性・役割遂行力等）がアップし、1コマ80分と90分の作業時間の生産数も安定してきた。しかし、28年度の事業計画の目標工賃5万円には、程遠い結果となった。　ピロの入荷台数は、企業の采配ではあるが入荷された枚数から納品する枚数の誤差（しわ・汚れ）を縮める作業努力が必要である。ロスの分析をして対応策を講じることが支援となる。ホテルや旅館の良し悪しの評価は、リネン類の品質が大きく影響し、企業も「衛生的なリネン類を安定供給をするために」の取り組みに力点をおかれている。我々も作業に関わる一人ひとりが、唯一無二のピロをお客様にお届けする意識を忘れず、企業に信頼される仕事をしなければならない。日々発生する問題課題に対し、企業と協働して解決や改善に取り組んでいる。次年度は、利用者を確保をして個々の作業の幅を広げたい。
重点項目の振り返り	**（１）鉄道リネンサービス株式会社の指示のもと、求められる品質や納期を守ります。** 事業開始前（11月中旬）に職員・ボランティア・実習生が、会社での3～4日の実習をして作業の手順や作業の構造化（整理整頓・導線・表示等）等を習得。求められる品質のピロ納品のために、企業の担当者と連絡を取り合い機械の調整や作業等の助言が受けられる環境にある。今日の入荷台数を伝えると、何時頃に作業が終了するか、利用者も読めるようになってきた。納期時間（17時～18時）を意識した作業ができている。（出荷日誌と毎月第1金曜日（定例）のリネン会議で報連相の徹底） **（２）自立に向けた意識が高まるような実践を行います。** ①1ヵ月の作業日の管理。（通院・余暇活動・その他の予定の把握をして休日の取得を前月の15日頃報告する。）②昼食の準備。（お弁当チケットの管理、お弁当代持参、必要時のお弁当注文、容器の粗洗い、お弁当づくり等）③自力通所。（朝の始まりは9時スタートで一定だが、終了時間が定まらないので帰宅時間を家族等に伝えるなど必要な連絡をする。）④貸与の作業服（半袖ポロシャツ:2枚と帽子2つ）の管理。（洗濯等） **（３）利用者の持つ強さ・良さに着目し、本人の持っている力を最大限に引き出します。** 2台のロールアイロナーの機械作業なので、身長や利き手により作業場所や内容選定、障がい特性（感覚過敏、集中の度合い、器用さ、身体：視力・足）理解をし、ピロの種類や作業内容の得意・不得意が見えてきた。利用者の作業は、投入が主である。3月より自分の投入枚数をカウンター機でカウントする取り組みをした。80分90分の作業時間に投入できる基準枚数を算出して、個々の目標数値を明示して投入する支援に取り組んだ。カウントすることで、枚数の意識はもちろんのこと投入以外のロス行動を分析をすることができた。ワゴン1台を5人、4人でしたら何時間必要かも予測できた。 次年度は、障がい特性の「強み：だからこそ」をさらに仕事に結びつけて、「できる」自信と「褒められる」喜びを大切にして、①仕事を通してスキルアップに挑戦する。②成長する機会を保障する。③より責任のある役割を担うことができる環境を支援する。 **（４）一般就労を目指す利用者には、それに向けた支援を行います。** 近い将来には一般就労をしたいと思って事業所を利用している人が2～3人いる。ホップの実習生と一緒に作業をする環境があり、働く姿がモデルになっている。リネンの会社への就労の希望もあるので、今後法人内の移行事業所とも連携して支援する。
事業内容	【生産活動】　ピロケースのリネン作業　仕分け⇒さばき⇒投入⇒たたみ⇒結束⇒積み込み 【活動・学習等】　マーブル会 開催日：（12／24.1/28.2/25.3/25）作業終了後2ｈ程度　場所：MIZU cafe cocco 内容：作業ミーテング＆お食事会（リクエストメニュー、給食費程度の実費負担有り） 対象者：利用者、家族、ボランティア、実習生、職員

事業名	２８年度：工賃支給総額　12～3月平均工賃（月額）	２７年度：平均工賃(月額)
B型	1,339,668円　33,492円	実績なし

利用者数	定員	年度当初利用者数	途中入所者数	途中退所者数	年度末利用者数
	10名	10名	名	名	10名

平均年齢	39.7歳	平均区分		平均利用率	84.8%	開所日数（月）	26～27日

平成28年度 行事等実施報告書（案）

マーブル

項目 月	行事	職員研修・職員会議等	防災・安全等訓練	健康・衛生管理	その他
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11	9～18.リネン会社へ職員実習 25 .開所式・内覧会、利用者契約 28.作業試運転				
12	24.マーブル会				
1	28.マーブル会	10.人権研修			11.リネンサービス会社主催の新年会
2	9～10.西宮商品棚卸 21～23.高島・向日町商品棚卸 23.リネン工場見学会 25.マーブル会				1.リネン会社との作業会議
3	17～18.京都・東横商品棚卸 25.マーブル会	17.職員会議	8.AED・交通安全研修		3.リネン会社との作業会議

事業所名：わになろう

総括	今年度は、職員配置が大幅に減となる中、特定事業所加算取得でサービスの質を高め、収益も一定カバーすることができた。日中一時支援の利用が増加、朝8時前から夜7時半過ぎまで受け入れ態勢を確保しつつ、今後の方向性を模索する年となった。わになろうのホームヘルプ支援の約半分が「行動援護」、1/3が「移動支援」となっており（時間換算）、知的・発達障がいのある方の余暇や通院等、「同行」や「付添い」のニーズへの対応が中心となっている事が再確認された。特に「行動援護」は高島市内で他に実施する事業所はなく、地域において知的・発達障がいのある利用者が「その人らしい」暮らしを実現するために、なくてはならないサービスとなっている。 体制が厳しい中、地域活動支援センター事業をやや縮小、生活体験は年間3回に限定し、土曜デイ（第2第4土曜）・アート活動（第1第3日曜）は1回ずつのみ開催の月もあった。土曜日・日曜日の余暇活動は、特に地域のグループホーム利用者にとって重要（アートは70%がホーム利用者）となっており、楽しいプログラムと仲間との交流は、在宅で暮らす障がいある人たちの生活の質、「その人らしい暮らし」を支えており、今後も法人全体で支える価値がある事業と考える。
重点項目	**（１）信頼関係を大切に、笑顔で安心できる、寄り添った支援を目指します。** 信頼関係はあらゆる支援の土台であり、「笑顔」「寄り添う姿勢」を大切にしながら「その人らしい暮らし」の実現に努めている。行動援護の研修を3名、同行援護研修を1名、強度行動障害支援者養成研修を1名が履修、権利擁護・人権研修も全員で学んできた。 **（２）利用者の「生活の質」・スタッフの「サービスの質」の向上に努めます。** 上述の研修をはじめ、熟練者による新人の同行指導や、職員会議等でのケース検討を通して「サービスの質」の向上を目指してきた。また、体制の苦しい中でも、でき得る限りその人らしい暮らし、安定した暮らしの保障のため、行動援護や移動支援、土日の地域活動支援センター事業（土曜デイ・アート・生活体験）を実施してきた。 **（３）安全運転に努めます。** 幸いにも交通事故は0件を維持。年度後半にはドライブレコーダーを全車に導入した。利用者と1対1で支援しながらの運転もあるので、引き続き、障がいへの配慮、安全運転、シートベルト確認、チャイルドロック、「かもしれない」運転などを徹底し、安心安全な支援に努めたい。 **（４）休日や放課後の余暇活動を充実させ、また、アート活動を通し、利用者の魅力を地域へ発信していきます。** 上述の通り、休日には、土曜デイ・アート・生活体験、また、長時間の行動援護や移動支援による本人の希望に応じた余暇支援を個別に行い、充実した休日を過ごして頂いている。放課後にも日中一時支援や行動援護・移動支援による個別支援で本人らしい暮らしを応援。アート活動も、12月の「ぴかっtoアート展」（県主催）、「はじまりのアート展」（独自開催）等で利用者の個性あふれる作品を紹介することができた。

延べ利用者数

	ホームヘルプ事業等								地域活動支援センター			
	居宅介護	行動援護	同行援護	移動支援	日中一時	セーフティネット	福祉有償運送	合計	土曜デイ	アート活動	生活体験	合計
H28	1,645	1,472	136	1,242	1,191	3	3,246	8,935	456	361	21	838
H27	2,002	1,436	149	1,496	807	1	3,492	9,383	592	450	72	1,114

平成28年度　行事等実施報告書（案）

わになろう

項目 月	行　事（活　動） 土曜デイ	アート	生活体験	職員研修・職員会議等	防災・安全等訓練	その他
4	9　花見 30　ミュージックケア・ドッジボール	17　人物画　／　自由画		26　虐待防止研修（チェックリスト①）	1　消防設備点検①	
5	14　ピクニック （マキノ高原、ピックランド） 28　ミュージックケア・DVD鑑賞	1　水鳥観察センター展示見学、写生　他 15　人物画　／　自由画		26　福祉有償運送運転者講習①		アート作品展示（水鳥観察センター）
6	11　ミュージックケア／ みんなで楽しむコンサート 25　避難訓練／カラオケ	19　自由画　／　シルクスクリーン	12　映画（敦賀アレックスシネマ）		25　避難訓練①	
7	9　カレー作り・レクレーション 25　ミュージックケア 夏祭り飾り制作	3　七夕飾り　／　シャボン玉アート 17　自由画　／　シャボン玉アート		15　安全運転管理者講習 21・22　行動援護従事者養成研修		
8	20　スポーツ　／　レクレーション	7　野菜の写生 21　自由画		8・10　行動援護従事者養成研修 30　同行援護従業者養成研修（一般）		
9	10　スポーツ　／　喫茶（COCCO） 17　納涼祭	4　缶バッジのデザイン画　／　自由画 18　自由画	11　近江あまごの里 （魚釣り・バーベキュー）	3　福祉有償運送運転者講習② 2・29・30　同行援護従業者養成研修（一般）		25「虹の会まつり」缶バッチ・布袋ワークショップ ぴかっtoアート展8名応募 22～26　ぴかっtoアート展　湖北巡回展（歴代大賞作品） （「十一面観音がよかった」）
10	15　ピクニック 29　避難訓練・DVD鑑賞　／ スポーツ	2　自由画（アート展作品つくり） 16　自由画（アート展作品つくり）		19・20　強度行動障害支援者養成研修	3　消防設備点検② 29　避難訓練②	4月～10月末「ふらっと美の間」作品出展 （「十一面観音がよかった」尾上温泉紅鮎荘）
11	5　スポーツ　／　DVD・朗読 26　ピザ作り（ドリーム）	6　自由画（アート展作品つくり） 20　自由画（アート展作品つくり）		4　同行援護従業者養成研修（一般） 27　法人研修（人権及び虐待防止）	22　交通安全研修①	
12	3　スポーツ　／ クリスマスツリー作り	3　「ぴかっtoアート展」鑑賞 4　「ぴかっtoアート展」鑑賞 17「はじまりのアート展」（アートライブ） 18「はじまりのアート展」鑑賞	18　バスケットボール観戦 （レイクスターズVSブレイブサンダーズ）	10　障がい者権利擁護・虐待防止研修		2～11　第6回ぴかっtoアート展（入選3点） 16～20　はじまりのアート展わになろう」出展（全員）
1	14　カラオケ／　和菓子作り 28　外食（かばた館）　／ カラオケ	15（大雪のため中止）			10　AED研修	
2	6　スポーツ　／ ティータイム（お菓子作り） 25　DVD鑑賞	19　お楽しみ会・1年の振返り		10・26・27　ステップⅡ研修 14　虐待防止研修（チェックリスト②） 24・25・26　サービス管理責任者研修	21　交通安全研修②	
3	4　スポーツ　／ ティータイム（お菓子作り）	5　鳥の絵（色紙・墨汁）・自由画 19　鳥の絵（色紙・墨汁）・自由画				

※わになろう職員会議　原則第2・第4火曜日

※その他会議(自立支援協議会全体会・定例会、発達障がい部会、精神保健福祉部会、進路部会、サービス担当者会議、ケア会議、滋賀県施設合同企画展実行委員会等)

※法人内会議(管理職会、主任会、リーダー会、給食会議、各種委員会等)

事業所名：大地

総括	今年度は、就労継続支援Ｂ型事業、生活介護事業の多機能事業所として契約者数26名で事業を開始。繁忙期には土・畑作業中心に、閑散期には文化・療育的活動するなど少しでも仕事と余暇のニーズに答えられるよう活動した。 地域と関わりを深めながら、無償提供して頂いた畑を利用して顧客から要望があった新たな野菜作りへの挑戦や、閑散期の新たな生産活動を導入するなど今よりも高工賃が得られる活動を取り入れる事ができた。また、地域の会社の方等とつながりを持つ事ができ、次年度以降に新たな販路や作業を請け負う交渉を進めることができた。次年度以降も仕事と余暇活動がバランスよく実施できるよう事業内容を整理していきたい。
重点項目の振り返り	**（１）「大地」のブランド化に努め、天然素材の土（「ふれん土」）製造、「野菜栽培」や「育苗」など「農」を中心とした活動に取り組みます。** 新たな取引先が希望する野菜や苗を栽培し販路を拡大することができた。 活動内容の幅を拡げる目的で滋賀県社会就労事業振興センターと連携。「土」の販売方法やより良い商品を目指すことをを目的とした検討や、県内の農業をしている事業所と交流しネットワークの構築ができた。 **（２）福祉サービス向上を目的に、支援の可視化・標準化の作成を進めます。** インシデントシートを活用し、毎日の支援の中で事故に結びつく要因となる状況を報告し、職員間で共有する場を作ることができた。これにより支援の可視化・標準化に向けて次年度より優先的に取り組む課題の整理や準備ができた。 **（３）地域や家族会、法人内の事業所と連携します。** 近隣地域に在住の方々や畑で出会う方たちとの何気ない会話で地域との交流を深めた。「ようこそ大地」や「ふくし祭り」などの法人行事をはじめ各種イベントで家族会や法人内の事業所と連携した活動ができた。 **（４）法人の基本理念・基本方針・目指す職員像に沿った職員養成に努めます。** 職員の経験に見合った研修への参加を実施した。また、次年度より継続して滋賀県・ＪＡ西びわこの指導員に訪問してもらうことで農業の専門性を高めることができ、専門スキルの構築に努めることができた。
事業内容	【文化・療育的活動】 バイタルチェック、ラジオ体操、柔軟、ウオーキング、エコフォスター、調理実習、絵本創作活動、音楽ワークショップ、音楽祭への参加、プール・スポーツなどの取組み 講師を招いて絵手紙、寄せ植え、人権学習等の実施 【生産活動】 園芸事業…土「ふれん土」製造・販売、野菜栽培・販売・花苗・寄せ植え栽培・販売 下請け事業…京都シール、アロン化成　メンテナンス事業…庭園清掃請負 リサイクル事業…アルミ缶回収　竹紙事業…竹紙製造・販売

事業名	28年度：工賃支給総額	平均工賃（月額）	27年度：平均工賃（月額）
生活介護	1,065,448円	6,830円	7,522円
Ｂ型	1,843,354円	11,816円	11,740円

事業名	定員	年度当初利用者数	途中入所者数	途中退所者数	年度末利用者数
生活介護	10名	13名	0名	0名	13名
Ｂ　型	10名	13名	1名	1名	12名

平均年齢（生活）	39.4歳	平均区分（生活）	4.1	平均利用率（生活）	120.8%	開所日数（月）	21.1日
平均年齢（Ｂ型）	36.7歳	平均区分（Ｂ型）	2.2	平均利用率（Ｂ型）	120.9%	開所日数（月）	21.1日

平成28年度 行事等実施報告書（案）

大地

項目 月	行事	職員研修・職員会議等	防災・安全等訓練	健康・衛生管理	その他
4	1 辞令式 9 花見 13 入所式	◎職員会議（第3月曜）◎作業会議（第2月曜） ◎OJT（通年）◎ステップⅡ研修（通年） ◎営農指導（随時）	無事故無違反月間 4 安全運転研修 28 AED研修	◎バイタルチェック月1回 検温・血圧・体重・体脂肪・腹囲	◎高島民生委員ボランティア（第1火曜日） 23・24米プラザ出店 ◎so（通年）
5	7 バーベキュー大会（家族会合同）	17 宇田博士講演会 31 福祉施設協議会研修			9 家族会総会 30 理事来所
6	5 スポーツ交流会				4藤美寮まつり出店 21 理事来所 23 西浅井民生委員児童委員見学来所 27～30 新旭養護学校実習
7	2 カレー作り（家族会合同） 16 おこしやすドリーム 23 パイロットクラブチャリティーコンサート	14・15 サービス管理責任者研修 18 考課者研修 22 虐待研修			4 家族会懇談会 1～3 新旭養護学校実習
8		5・10 サマーホリデー	12 防災訓練	3 嘱託医健康指導	1 新旭養護学校実習 2 家族会懇談会 28 理事来所
9	2 プール活動 25 新旭福祉まつり	9 農福連携研修		29 歯科検診	
10	14 日帰り旅行 29 ようこそ大地	17 安全運転管理者講習 25 農福連携研修	21 消防設備点検		27 第三者委員来所
11	13 虹の会20周年記念 19 糸賀一雄記念音楽祭	1・30 サービス管理責任者研修 27 法人研修 28 自閉症学習会			6 第三者委員全体会 19 理事来所
12	22 クリスマス会 26 KOSEI輝く芸術祭	1・7・8 サービス管理責任者研修 10 農副連携研修	無事故無違反月間 16 防災訓練	7 定期健康診断	12JA農業祭出店
1	6 新春の集い（家族会合同） 7 成人祝いの会	10・11 リスクマネジメント研修			16 大阪自彊館見学来所
2		2 障がい者虐待対応研修	23 防災訓練	8 嘱託医健康指導	6（株）兼田漬物見学来所
3		3 総括	21 消防設備点検	23 施設内ワックス掛け	7 第三者委員来所

事業所名：計画相談支援センター　虹

総括	今年度は法人として、昨年度まで2か所に分かれていた計画相談支援部門（虹とコンパス）を統合し事業を実施した。新年度に入り、前任者からのケースの引き継ぎ等で忙殺される事と併せて年度当初想定していた人員体制の急な変更も余儀なくなり、6月に入り、ようやく事業所として少しずつ動き始められる状況であり、年間を通してその影響を受けることとなった。 また、人員体制については、スケールメリットを生かすという方針もありこれまでの両事業所総数より1.5人減の3人体制で、ケースについては従前の数を引き継ぎ、契約対象者250人、年間延べ740件（計画158件、モニタリング582件）への対応に挑んだ。体制に余裕が無い中で、在宅での生活が中心の虹の契約者についてはサービス等利用支援や継続サービス利用支援以外の基本相談支援について時間確保が必要なケースが多く、職員への負担感は大きかったと思われる。 経営的には年間約6,000千円の赤字となり非常に厳しい状況となった。その解消には計画やモニタリングの件数を増やす以外に無かったが、契約している方々へ必要な相談を届けることを第一に考え、少しでも通常の業務をスムーズに進めて行くことを優先したため、新規受け入れについては慎重にならざるを得ない状況であった。更に年度途中から法人内の契約者については事業所からも側面的な協力を得て改善を進めて行くようにしたが、それでもなおスムーズにすすめられたとは言い難かった。 計画相談支援等を進める上で市町村の役割として「体制整備に関して一義的な責任がある」とされている。障がい福祉計画の策定にあたってサービス利用者数等を見込むと同時に、サービス等利用計画の作成やモニタリング等の計画を見込むことや地域の事業所への特定相談支援事業所開設への働きかけ、事業所側が将来的な業務計画を立てることができる環境づくり等である。一事業所の努力で解決できる経営課題も既に超えており、法人内の努力に任されるべき問題でもない。自立支援協議会でも計画相談支援体制のあり方等について課題提起をし、地域として必要な体制整備がなされるべきと発信した。これにより「計画相談体制のあり方プロジェクト」が立ち上げられた。今後他の相談支援事業所とともにプロジェクトへの参画を通して、地域関係者と共に課題共有をはかり、提言書をまとめて地域へ発信し解決の糸口としていきたい。
重点項目の振り返り	**（１）利用者の生活が豊かになるようなケアマネジメント活動を実施します。** 一人ひとりの「生きづらさ」に焦点を当て、本人のニーズ（必要）に応じたサービス活用ができ、そのサービスが本人対して有効に働いているか、モニタリングを通して支援サービスの評価・改善を検討していく必要がある。しかしながら業務に追われがちで計画変更の見直しのタイミングは、その必要性が生じてから実施しているケースが多かった。 **（２）当事業所（虹）と高島市障がい者相談支援センターコンパス（計画相談部門）との統合（ケース移管）を円滑に行います。** コンパスから虹のケース移管については、契約者の方々には理解・協力を得ながら大きな混乱はなく比較的スムーズに進められた。事業所が変更になることより担当者がかわる事に対して不安を伝えられる方もいたが、支援の継続性を重視しながら、ご本人・ご家族等との関係性の構築については丁寧な対応で進めさせていくようにした。しかしながらモニタリングの間隔が長い方（最長６か月）については、相談員との関係性の構築が十分に築けないまま、毎年担当者が変更しているケースもあり、これまでの関係機関の担当者との関係性が優先されるケースもあった。 **（３）職員の資質向上を目指します** 相談支援連絡会での事例検討とともに、相談支援専門員が複数体制になったことにより事業所内でも対象者の課題等について定期的にケース検討の時間をもち、多角的な視点で互いに学び合う機会がもてた。相談支援専門員としての資質向上・専門性を磨く等の研修については、時間確保が難しい中でもなるべく参加するよう努めた。